



日本共産党

そねはじめレポート (王子駅版)

2011年 11月23日発行 第 22 号

そねはじめ事務所

114-0032

北区中十条 2-11-6

Tel: 3907-1135

Fax: 3906-3225

そねはじめ前都議区議団とともに北区長に 2012 予算要望提出 医療介護の危機打開に具体的行動を ●北区で必要な病院ベッド数を増やせるよう国・都と交渉を



11月21日朝、日本共産党区議団とそねはじめ前都議は、来年度北区予算への要望書を提出しました。(写真)

要望は防災・放射線対策や医療・介護対策をはじめ412項目に及び、八巻幹事長が約百項目の重点要望を説明。

そねはじめ前都議は第1に、公的存続法が成立し百ベッド増を申請した北社会保険病院が、区部西北部医療圏(北・板橋・豊島・練馬)のベッド規制で63床でストップされた問題で、「人口増の練馬と高齢化の北区で病院が足りないのは矛盾だ。北区が独自に必要な病

院とベッドを確保できる道を切り開いてほしい」と要望しました。

●介護保険料値上げ抑えるため最大努力を

第2に、このままでは来春、北区の介護保険料が現在の23区最少数額から大幅値上げになってしまうのを何とか止めるために、区として最大限の努力を要請しました。とりわけ介護事業安定化基金への都の支出が60億円で、高齢者一人当り月50円分にしかならず、しかも保険料軽減には使えないなど制限が大きいことから「保険料抑制に役立つ都の思い切った財政支援を取り付けるよう23区共同の取り組みを」と求めました。



赤羽西6丁目スポーツの森公園
集会所での党後援会「かなくさ
会」学習会で話すそね前都議



そねはじめ各地で都・区政報告 来年こそ都民本位の予算に

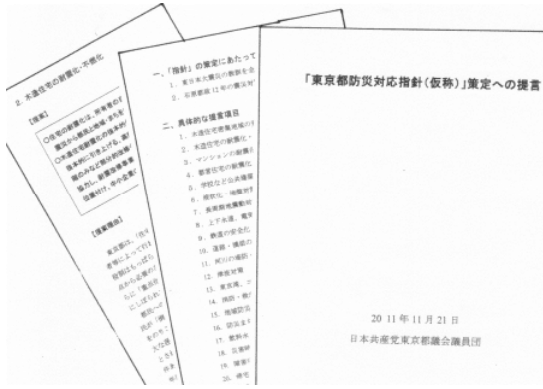
10月から11月にかけて、宇都宮区議はじめ全ての区議の地域で都区政報告会が開かれ、そねはじめ前都議は、①都議会での議長ポストを巡り自民・公明VS民主が都民不在の泥仕合を演じる一方、オリンピック招致決議だけは野合して共産党の反対討論も封殺して強行するなど異常な都議会の実態を報告。

②TPP問題では、都民の食料の1割を担う都市農業への壊滅的な影響や、大田区はじめものづくり産業の打撃など、都民の身近な暮らしとの関わりを詳しく紹介しました。

③防災対策の最重点である住宅耐震化助成や、高齢者の医療介護など思い切った支援ができる来年度予算実現のためにもオリンピック準備基金の都民活用を訴えました。

質問に答え、宮古の瓦礫受入れは放射線測定も行い賛成だが、東北全体の膨大な瓦礫処理は国が責任果たすべきこと、一方で住宅耐震化に「助ける義理はない」と暴言をはき予算をケチる石原知事の姿勢に警戒が必要なこと、地域でお茶飲みや対話ができる場づくりを応援する区政をめざすことを話しました。

共産党都議団が都の防災指針を前に具体的提言



11月末に予定の東京都「防災対応指針」策定を前に、計画に盛り込むべき政策を項目だけでなく根拠まで詳しく提案する共産党都議団の提言を21日、都議団から副知事に提出し具体化を申し入れました。(写真)

対応した佐藤副知事は、ふみこんだ政策に「じっくり見させてもらう。都の対策は早急に示したい」などと答えました。

◆第1ポイント・大震災の教訓をくみつくせ

東日本大震災でその脅威が明らかになった海洋地震による津波被害と液状化への対策を最新の想定で見直し、それを超える

レベルまで対策を打つこと。安全神話から脱却する立場で原子力災害対策を強めること。

都が地震想定を狭めてきた弱点も指摘し、すでに6月代表質問で求めた立川断層地震を想定に加える課題は、都の防災会議でようやく実現の方向が出されました。

◆第2のポイント・石原都政12年の震災対策の弱点を是正せよ

石原都政が改悪した震災条例の「地震対策の第1は自己責任」の立場を改め、都民の命と財産を守る自治体の責任を果たし、予防第1の原則に立ち返ることを要求。とくに静岡に比べてあまりに貧弱な木造住宅の耐震化に思い切った支援を行なうことなど突っ込んだ提案を行なっています。

新たに浮彫りになった長周期地震動など大都市ならではの災害へのものさ、帰宅困難者対策のズサンさ等も抜本的に見直すよう求めています。

◆都には十分な財源がある

都は五輪招致を断念すれば四千億円のオリンピック準備基金はじめ、活用可能な財源が十分あります。なにより都民の世論を大きく広げることが必要です。(写真は石巻の津波被災地に立つボランティアのそねはじめ前都議)



そねはじめ交友録<その十六>

杉並女性運動のしなやかさ 象徴する丸浜江里子さん

大阪で橋下”独裁”政治を許すかが大きな焦点になっていますが、東京でも”石原独裁”とねばり強くてたかかってきました。

とくに教育攻撃では、橋下前知事が「知事の気に入らない教員を罷免させる」条例案を出すまでの暴走を、石原都政にゆるさなかったのは、多くの都民と父母の共同の取り組みがあったからです。

その中で忘れられないのが、杉並在住で、都立高校のわが子の卒業で「君が代強制」に直面した丸浜江里子さんです。

彼女は最初一人で都議会を訪ねて、卒業式で「日の丸・君が代」を強制しないよう話しても校長が頑として取り合わないなか、やっと

10人ほどの保護者仲間を集めてきました。「都議会を動かすには万単位の署名を多くの学校に広げないと」と言うのと「息子の中学時代の同級生を通じて他校にも広げます」との話。おぼつかぬ印象でしたが毎週すごい速さで拡大し、一月半で都立百校に広げ、署名も3万に達しました。この力が教員のたたかいやマスコミ報道、生徒自身の「起立や斉唱は自分で決めたい」という毅然とした声などに火をつけ、東京の教育問題で初めて保護者を核とする自発的議会運動に発展したのです。

丸浜さんとは意見が違う事も度々でしたが、いつもにこやかでしなやかな活動ぶりには杉並の女性運動の奥深い歴史を感じました。最近、丸浜さんが、杉並から始まった原水禁署名運動の歴史をまとめた著作を出版されたのを見て、改めてそれを確信しました。

丸浜さんの著作は赤旗他各紙で紹介されました。写真は朝日の7月12日の記事より

の前で著書を手にする
東京都杉並区狭間3丁目

反核の源

発達して一人。子どもの健康や食品の安全といった切実な問題に対しても巻き起こった素朴な感情や、「お上さま」にかけておけない」という気分は、3・11もつなぐことになり、丸浜さんは感じた。

3・11 太平洋 11時45分
月1日、太平洋 11時45分
で米国が水爆実験した。近海で操業中のマグロ漁船「第一五福丸」が被爆。汚染された魚が水揚げされた。大気中に広がった放射能は、遠く日本列島にまで届いた。

別冊を始めた主婦、丸浜さんに子どもを乗せて街頭に立つ母親。納言と書かれた資料に、時代の息づかいを感じた。地元から広がった社会運動で車輪がわいた。署名運動を提案した当時40

母親らが署名活動

公立中学の教諭をやめて、大学院に通っていた丸浜さんが運動を研究テーマに選んだのは2005年。区内の関係者に集められていた資料と出会ったのがきっかけだった。最初は「お上さま」をめぐり、別冊を始めた主婦、丸浜さんに子どもを乗せて街頭に立つ母親。納言と書かれた資料に、時代の息づかいを感じた。地元から広がった社会運動で車輪がわいた。署名運動を提案した当時40

「3・11」に重なる 命と食への危機感